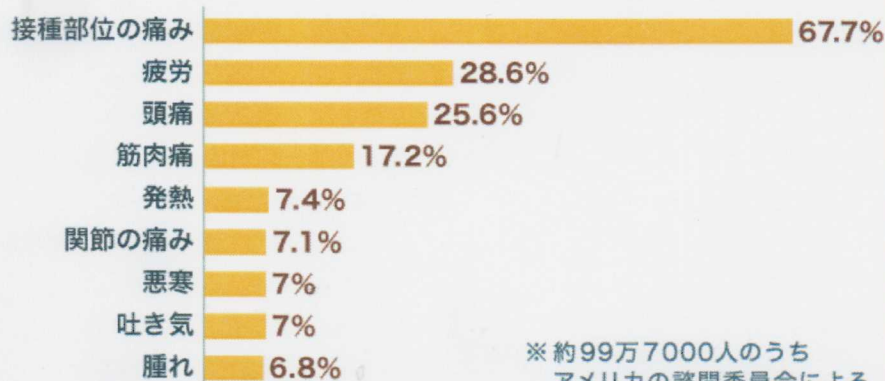


感染症に詳しい国立三重病院の谷口清州 臨床研究部長によりますと、発熱や腫れなどのワクチンの副反応は、免疫を活性化させるという「主反応」が起きていることの裏返しで、免疫の機能が働いて効果が出ていることの現れだということです。

## どれくらいの人に起きる？

NHK

## 新型コロナワクチン(ファイザー製・1回目の接種)



※約99万7000人のうち  
アメリカの諮問委員会による

## インフルエンザワクチン

接種部分に赤み 腫れ 痛みなど ▶ 10～20%

発熱 頭痛 寒気 けん怠感 ▶ 5～10%

※厚生労働省による

新型コロナウイルスのワクチンのうち、日本で最初に接種が始まったファイザー製のワクチンの場合、予防接種の実施に関するアメリカの諮問委員会によりますと、ワクチンを接種したおよそ99万7000人のうち、1回目の接種では

- ▽接種部位の痛みを訴えた人が67.7%、
- ▽疲労が28.6%、
- ▽頭痛が25.6%、
- ▽筋肉痛が17.2%、
- ▽発熱が7.4%、
- ▽関節の痛みが7.1%、
- ▽悪寒と吐き気がそれぞれ7%、
- ▽腫れが6.8%で報告されました。

アメリカ・CDC=疾病対策センターによりますと、こうした症状は接種のあと1日から2日以内に起こることが多く、数日で消えることが多いということです。

こうした症状は、インフルエンザのワクチンで報告されている副反応とも共通しています。